2012／夏

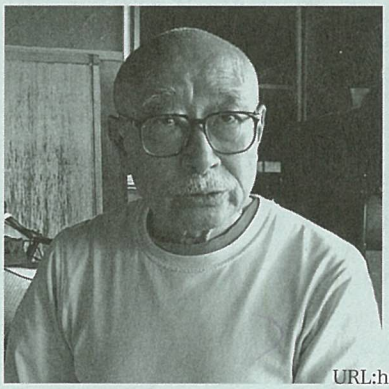
季刊　福井県和紙工業協同組合

和紙だより

■目次

越前和紙への提言　内藤 恒雄さん……1頁
ショップレポート　風雅すたいる……2頁
漉き場探訪　やなせ和紙……3頁
情報欄　イベント情報、お知らせ……4頁

―越前和紙への提言―



■内藤 恒雄（ないとう つねお）
1948年東京都台東区生まれ。「柚野手漉き和紙工房」主宰。駒沢大学法学部在学中に、「日本独自で世界に誇れる仕事」として手漉き和紙に注目。1970年から6年間、埼玉、島根、岡山で手漉き和紙技術を習得。1976年、静岡県富士宮市上柚野に、富士山の見える「柚野手漉和紙工房」を開設。2000年、国際交流基金の助成を受け、ベルリン、ライプチヒなどでワークショップ開催。2011年、日本とフランスにおける手漉き紙の技術・日仏共同会合・プログラムにて、口頭発表などを行う。2007年「駿河半紙技術研究会」を設立し、技術継承にもあたっている。

URL:http://plaza.across.or.jp/~yunotesukiwashi/

内藤恒雄さん（手漉き和紙工房主宰）
「作って売るのが自分のテーゼ」

●手漉き和紙にこだわって

大学四年の時にカナダにいく機会を得ました。モントリオールの家庭を何軒か回り、彼らの暮らしぶりをゆっくり見るにつけ、外の目で逆に日本って何だろうと考えるようになりました。帰国した当時、テレビ朝日の日曜の朝の番組で「日本の巨匠」という三十分のドキュメンタリー番組をやっていて、いわゆる人間国宝の方を紹介していたのです。すぐにあちこち回って人間国宝のリストを手に入れました。昭和四十四年だったと思うのですが、リストには新しく「手漉き和紙」が加わっており、すぐ出雲の安部栄四郎さん、石州の久保田さん、越前の市兵衛さんを訪ねていきました。石州に行った時「東京出身だったら埼玉の小川に県立製紙試験場があり、手漉き和紙講習制度があるから、そこで学んでは」とアドヴァイスを受け、深みにはまり（笑）一年間研修しました。小川は楮だけだったので、やはりいろんな紙を知りたいと思い、その後、八雲と岡山で計六年間、楮、三椏、雁皮全ての紙の扱いを修得し、一九七六年、富士山を背景に天日干しがはえる「絵になる工房」を構えました。一貫した手仕事にこだわり、乾燥も天日の板干しです。原料も自家栽培のものや那須楮など、国産のものを使います。

●「売る」時は徹して

古い産地は昔から問屋さんがあって、原料を提供し、販売も仕切っていたのでしょうが、私の場合はゼロから始めたので、最初から作って、直で売るというやり方です。現在の和紙業界の低迷の原因のひとつには、生産者が「売る」ということに余りに無関心すぎたということもあるのではないでしょうか？「作ること」と「売ること」は別のお仕事ですから、売る時には「売る」ことに徹して、とにかくお客様一番で、お客様のためになることに私は頭を集中します。直接お客様に売っていけば、要望自体が分かるわけだし、こちらも手漉き和紙のことをじっくり説明することが出来ます。お客様の殆どは書家、版画家、墨絵画家、日本画家などの美術家です。和紙の実用的な用途というのはある時には強いが、こういった分野は逆に常に機械が狙っているわけで、時代が変わると急速にダメになります。美術の分野は、その点市場は小さいかもしれませんが、うちのような工房には向いていると思いますね。大学では書道部だったし、修業先の岡山でも書道関係の紙を作っていたので、書の方は大体どの先生がどういう紙が好きかは知っていました。その他の分野はいろんな先生とお話しする中から、徐々に紹介していただきました。相手は美術家ですから、ただ紙が安い高いという話だけではなく、美術のお話が出来ないといけません。私は作品を見ること自体が好きで、先生とお話しするのも大好きです。美術談義に花を咲かせるようでないと営業にはなりません。かな書の方は墨のにじみ具合や墨色の出方を気になさいますし、版画だと色の落ち着きや刷りに耐えるかなど、表現を模索している先生には試作を使ってもらい、意見を聞くというようなこともやります。いろんな種類の紙を製造していますが、ご自分の表現に合う紙に出会って欲しいので、ロット売りではなく一枚売りをしています。固定客は現在三十人ほどでしょうか。

富士の見える「絵になる」工房

●「駿河半紙技術研究会」

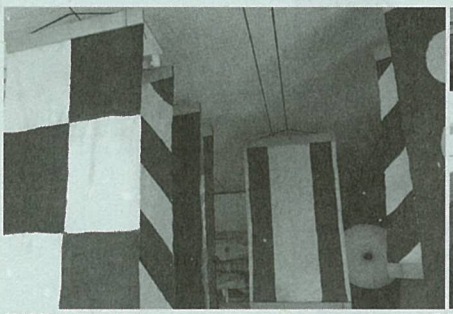
この辺りは江戸時代には三椏を原料とした紙を製造し、江戸、京都、大阪に、かわら版に使われる紙として出荷していました。二〇一一年、還暦と独立三十周年を迎え、NPO法人「駿河半紙技術研究会」を設立しました。富士宮市にもご協力いただき、現在事務局は市役所内にあります。「駿河半紙」というのはブランド名にもなっているのですが、三椏紙だけを作っているわけではないので、平成の「駿河半紙」を目指し、日本が世界に誇れる様々な

敷地内に植えられた説明用の楮

工房全景

手漉き紙を伝えたいと、年に四回の実技研修と秋に文化講演会を行っています。今までに、「正倉院の料紙を調査して」「書を通して和紙の魅力を語る」などのテーマで研究者や書家にお話していただきました。

昨年は、フランス人文科学研究所やルーブル美術館等の助成を受け、美術修復における日仏の手漉き紙の技術交流プログラムに参加し、発表してきました。二〇〇〇年にベルリンに行った時は、ドイツ国立技術博物館のプログラムでしたが、実演も行いました。参加された方は認識が高く、海外の方の方が反対に日本の状況を危惧しているようです。和紙がヨーロッパで本格的に修復用に使われ出したのは、実際には十年程前のことで、情報不足と商社が介在するなどの原因で、まま質の悪いものが売られているようです。「これが世界に冠たる日本の修復用手漉き紙か?」とがっかりするような紙もあると聞き、出来れば直で本物を届ける体制が作れて、すぐれた紙をもっと紹介することができるといいのですが…


柿渋染めのタピストリー

美術用和紙はある程度ストックしている

繊維晒し水槽をタイルにする工夫をしている

ショップレポート

■「風雅すたいる」-和紙繊維雑貨・ウェアの店

風雅すたいる外観

フランス人にも人気の東京都新宿区神楽坂は、大正時代に栄えた花街の面影が残る江戸情緒の坂の街。この街はまた福井県との関係も深い。何でも、神楽坂の矢来公園辺りには江戸時代、若狭小浜藩邸があり、「解体新書」を著した蘭学者杉田玄白はこの屋敷内で生まれ、小浜藩に仕える医者でもあったそうだ。こうした縁から、地元商店街には越前・若狭の食材、越前そばを扱うレストランも多く、毎年十一月には「越前・若狭まつり」を開催している。大通りから一本入った閑静な路地《芸者新道》の一角に、和紙繊維の雑貨やウェアを売る「風雅すたいる」のアンテナショップがある。商品を扱う販売店は全国で約百箇所。

●撚り技術が特長の柔らかな機能繊維

「風雅すたいる」を運営しているのは福井に工場を持つ(株)キュアテックス。同社は、二〇〇七年、和紙繊維事業、紙袋・紙箱製品等のパッケージ事業、デザイン事業を「エコロジー」をテーマに創業。二〇一〇年、神楽坂に直営店「風雅すたいる」を開店した。販売されているウェアやストールに使用される「キュアテックス・ヤーン」は試行錯誤の上、五年かけて開発されているが、そこには越前和紙の伝統技術が息づいている。

撚りにノウハウの詰まった原糸

和紙繊維製品は、近年エコ素材であることや吸水性・対アレルギー性、調湿効果、涼感や保温性などの性質も相まって、ナチュラル嗜好の客に人気上昇中だ。同社の繊維は八十%以上の紫外線カット効果、二時間後で八十〜九十%前後のアンモニアガスを吸い取る消臭効果、洗濯を重ねるごとに効果が強くなる抗菌効果などがあり、夏は涼しく、冬は暖かい感触が受け入れられている。

中でも、他社製品と違うところは、糸の軽さ、薄さ、強度だという。主原料は麻系の多年生植物の樹皮から和紙を作り、テープ状にスリットした和紙を撚って糸にする。原紙の厚みは、他社=十五ムグラ/m²に比し、同社=十二ムグラ/m²で十三%強、薄い。又一般的な撚りは「水撚り」一回で機械乾燥するところを、「キュアテックス・ヤーン」は急激な乾燥で糸の風合いが変化するのを防ぐために、天日干しにし、繊維内に空気の層を含ませやすい繊維構造となっている。撚糸機械は敢えて旧式のものを使い、ゆっくり丁寧に撚ることで「木綿のように柔らかく、細くて丈夫な機能性」繊維が出来上がる。

●リピーターが多い

「和紙繊維の良さを知っていただこうと思ったら、アイテム的には肌に触れるもの-衣料品がいいというのは最初からの流れでした」と語る営業部の酒井章徳さんのお父様は、この繊維開発に携わった工場長でもある。

客層は四〇〜五〇代の女性が中心で、特に肌が弱いという人ばかりでもなく、こういうものに多少お金をかけてもいいというナチュラル志向の人が多い。靴下は特にリピーターが多く、一度使ってその快適さを実感してもらうと、プレゼントなどにも買っていくそうだ。日本の伝統色を基調としたストールも人気商品のひとつ。肌触りの良さと首回りの日焼け防止を兼ねて、オシャレに首回りを演出したいという女性客のニーズに叶っており、普通に洗濯できるのも嬉しい。

汗をかいてもベタつかず、さらさら感が持続するキャミソールなどのインナーやワンピース、Tシャツなどのカジュアルウェアもあり、これらは企画部でデザインされる。又生成りの色を活かしたバスミトン、ボディタオル、洗顔クロス、あぶらとりハンカチなどは、敏感肌、乾燥肌にも安心して使えるオーガニックコスメのアイテムとして、最近メークアップアーティストからも注目されている。

「カフェも併設していますが、和紙繊維のことを知らなくておいでになったお客さんにも説明して差し上げると、『これが和紙で出来ているなんて!洗濯しても溶けないのですか?』と驚かれ、製品の理解に一役買っています」とショップの高橋さんは語る。

●機能繊維を目指して

同社の和紙繊維製品は抗菌性他の効果が認められ、ソックスを始めとする商品がJAXAの宇宙滞在

人気アイテムのストール

店内の様子

被服に採用され、スペースシャトル内の宇宙飛行士の身を包んだ。また、二〇一〇年に起きた南米チリの落盤事故の際、日本の外務省の要請を受け、靴下が支援物資として閉じ込められた鉱山労働者に届けられた。今年五月にはドイツ・ベルリンで開催された「環境毒性と化学の国際会議」では、地球規模で問題になっている下水処理では処理しきれないで海に流れ出しているタミフルなどの海洋汚染物質の除去に同社の「キュアテックス・ヤーン」の効果が認められる発表がなされた。

同社では、この様な和紙繊維の機能性の面でも大学研究室と共同研究を続け、社のテーマである「エコロジー」に根ざした新世代の環境繊維にも活路を見いだしたいと考えている。

Café

漉き場探訪

■有限会社 やなせ和紙
「工夫するのが楽しい」

やなせ和紙は、一九七五年、親戚筋に当たる上山製紙所の手漉き部門が分かれ、会社組織にしたが、大滝地区に工場を構えたのは戦後のことである。永年手漉き本鳥の子紙の襖紙を製造してきた。伝統工芸士三人を含む従業員は、社長の家族も含め七人。工場には、襖紙用の大きな漉き舟や紙床などが並んでいる。社長の柳瀬晴夫さんにお話を伺う。

●無地の本鳥の子紙

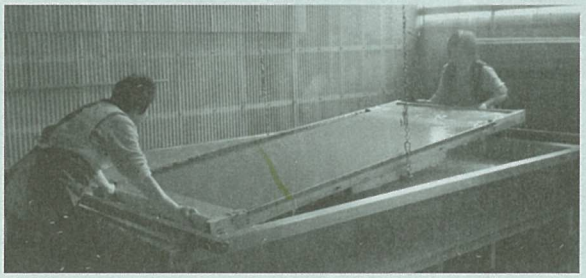
鳥の子紙類は嘉暦年間（一三二六～二八）の文献に初出し、雁皮を材料としている。紙の色が鶏卵に似ているところから、鳥の子紙・鳥の子色紙と呼ばれ、越前が主産地となっており、現在の襖紙本鳥の子紙は原料の違いにより次の様に種類別けしている。特号紙は雁皮、一号紙は雁皮と三椏、二号紙は三椏、三号紙はパルプと三椏を主原料とする。以前は山や松の模様紙や雲を表現したような彩雲紙などの模様襖紙も多く手掛けたが、現在は主に無地の一～三号紙を漉く。模様紙は激減したが、無地の方はまだかろうじて需要があるという。

「手漉きの無地の紙はその上に本金を載せたり、唐紙の木版を押したりなどの後加工をします。京都や東京方面の大きな神社などの需要が殆どですが、どうしても和風の立派な住宅でないと手漉きの襖というのは入らないですね。」

社長の柳瀬晴夫さん

金砂子などの後加工をする際、表面の凹凸や手を触れた跡があると拾ってしまうので、紙面を平滑に、均一にするのが無地の難しいところ。取り扱いにも非常に気を遣う。襖絵の紙にも用いられる。注文は殆どが産地問屋さんから来る。

「襖を仕立てるのには、いろんな職人の手を経なければならないので、表具屋さんや材料屋さんの繋がりが強く、特に昔の商慣習が残っています。」

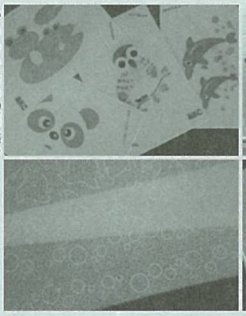

襖紙を二人一組で漉く

http://washicco.jp/

同社の紙は最近では、函館「五稜郭」に復元された奉行所内、東京本願寺の大規模襖張り替え、福井市の名勝「養浩館」などに採用されている。

●工夫するのが好き

一般住宅の和室が減り、襖紙の需要も落ち込む中、ホテルや旅館でも襖紙を単価の安いものにしたり、貼り替え時期を延ばすなどの流れが続いているという。引っかけや水玉、落水等の襖紙模様の技術を使って、何か出来ないかと考え付いたのが「和紙っこ」という商品。窓ガラス等の平滑な所に張って目隠し・飾りになる和紙のキットで、特殊な糊が裏に塗布してあるので、水だけで張ることができ、きれいに剥がして繰り返し使うことも出来る。ご本人の言うところの「かわいい系」の流し込み模様に使う小さな金型は、自分で真鍮を曲げ、ハンダ付けをして作っている。

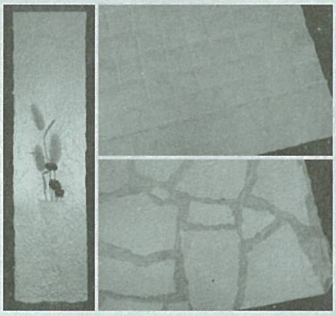

かわいい系の「和紙っこ」と開発中のシンプルな「和紙っこ」

手作りの真鍮のひっかけ金具

使うほどに手になじむぶっくカバー

モダンなインテリアにも合う無地の「和紙っこ」も開発中。窓に張るとオシャレな目隠しにもなる上、切ってレイアウトの妙を活かすことも出来る。折からの電力問題で気になる今夏の日よけ対策にも効果が期待できる和紙として試作中。また、使うほどに柔らかく馴染むブックカバーを楮のしおりを付けて商品化した。

事務所の棚には、面白い紙の試作が所狭しと転がっている。各所で何度か展示されている立体的な円形をかっちり浮き上がらせたパネル状の紙も、ここが作った。楮と雁皮の漉き合わせに糸をはさみ、後から糸を引っ張ると表の紙は破れて裏紙の色が見える紙。文字のシルクスクリーン型で漉き合わせた紙など、素人目にはどうやって作ったか分からない紙の話になると、俄然目が輝き出す。柳瀬さんは「結構技術を考えるのは面白くて好きですね。糸入りの紙は、ポケットのある紙が作れないかなあと


棚には面白い和紙の試作が並ぶ

ポケットのある和紙

いう思い付きが二転三転して生まれたものです。ここの紙も何かに利用できるといいのですが…」と語る。

●社会貢献

今年で受け入れ九年目になる東京の「赤坂中高生プラザ（なんでーも）」の紙漉体験。毎年学生二～四人が和紙の里に滞在し、和紙作りの工程を学び、自分たちで手漉き和紙作品を作る。この作品作りを同社が受入れている。子供達は悪戦苦闘して二人ひと組で襖紙を漉いたり、引っかけ金具で絵柄を載せるという作業を嬉々としてやるそうだ。

紙漉き体験をする赤坂中の2年生

柳瀬さんにはバンジョーやギターの趣味があり、フォークおじさんバンド「夢の会」で仲間達と楽しんでいる。地元岡本小学校四年生の「通学合宿」やお祭りの時など、年に十五回程出演依頼がかかる。レパートリーには越前の「紙漉き唄」やお祭りの最後に唄われる「松坂唄」も入っているという。「産地の民謡を聞いてもらい、それがきっかけで和紙の里に足を運んで頂ければ。これも社会貢献のひとつかな？」と笑う。

「とにかく皆さんに和紙に触れてもらいたい。何でもいいから身近に和紙を置いてもらいたい。そんな風に使ってもらえる小物にも挑戦したい」と柳瀬さんは抱負を語った。

和紙ミニコーナー

■「越前和紙『美と芸術』の世界展」日本橋高島屋で開催

二〇一一年秋、二〇一二年正月、日本橋高島屋のショーウィンドーやエントランス飾った越前和紙のタピストリーやディスプレイ作品は大きな反響があり、NHKその他のメディアにも取り上げられた。百貨店では、その後も越前和紙についての問い合わせが続いたことを受け、越前和紙の全容を本格的に紹介したいと、杉原商店と展覧会を企画。五月二六日～二十一日、八階エクセレントルームにて開催の運びとなった。

会場にはタピストリー、アート創作和紙、東京スカイツリーの模型など約三十点の他、照明器具、帽子、うちわ、スマートフォン用カバー、ステーショナリーなど多種多様な和紙生活用品百点も並べられ、販売品のトートバックなどは展覧会初日で即日完売するほどの盛況ぶりで、入場者数は一〇〇〇人を越え、メディア取材は五件にものぼった。

会場の模様

初日に行われた市兵衛さんのトークショー

会期中、人間国宝岩野市兵衛さんのトークショーもあり、千年の伝統が育んだジャパンメイドの美やものの魅力を伝える画期的な発信イベントとなった。

情報欄

●イベント情報

■越前市岡本小学校5年生「流し漉き体験」
時：7月5日（木）
場所：卯立の工芸館
指導：越前和紙伝統工芸士会

■越前市小学校卒業証書漉き体験
時：7月19日（木）～8月30日（木）
場所：パピルス館
指導：越前和紙伝統工芸士会

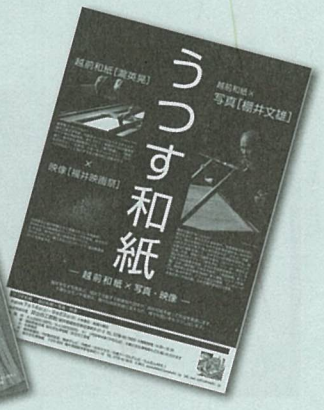
■和紙の里夏まつり　河濯さんまつり
時：8月4日（土）
場所：和紙の里通り

■「第四回越前和紙　七夕吹き流しコンテスト」展示
時：7月14日（土）～29日（日）
場所：越前市　いまだて芸術館
審査発表　7月23日（月）いまだて芸術館にて

■卯立の工芸館企画展「うつす和紙」
時：7月14日（土）～9月23日（日）
場所：卯立の工芸館

■丹南産業フェア2012
時：9月15日（土）～17日（月・祝）
場所：サンドーム福井
体験・展示・即売あり

■平成25年カレンダー作製作業
時：平成24年9月～
越前和紙青年部会



編集後記
最近、プロアマを問わず作品を売り買いする手作りサイトが充実し、作品のレベルも上がってきた。料金の支払いなどがきちんとしているか、そのうちのひとつのサイトから、気に入ったアクセサリーを試しに購入してみたが、何の問題もない。作家との交流や注文も交わすことも出来る。和紙作品が増えれば、平紙の消費が高まるかもしれない。（よ）

季刊・和紙だより 第35号（2012年夏号）　発行日：2012年7月10日　和紙だよりURL→http://washidayori.jimdo.com/
発行人：福井県和紙工業協同組合　山田益弘　〒915-0234　福井県越前市大滝町11-11　TEL: 0778-43-0875　FAX: 0778-43-1142
編集所：Office YOMOSA　〒606-8225　京都市左京区田中門前町90　TEL: 075-712-8834　FAX: 075-702-6223　E-mail: m-yomosa@smail.plala.or.jp
編集人：右衛門佐美佐子・田中裕子
※無断での転写・転載はお断りします。